

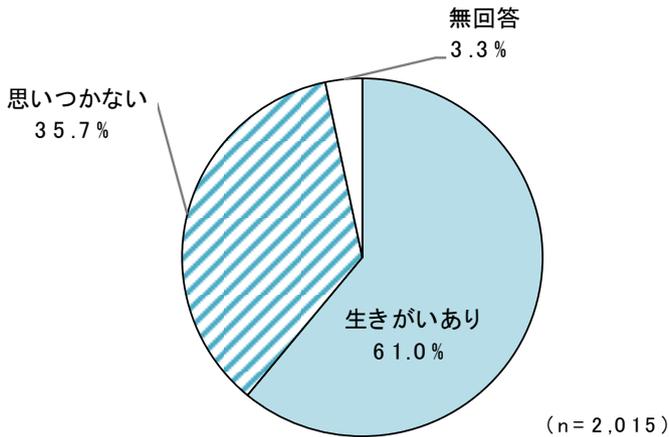
## 高齢者の暮らしと介護についてのアンケート調査結果

○基本目標「自分らしい生活と生きがいづくり」、重点課題①「介護予防と社会参加の推進」についてのアンケート結果

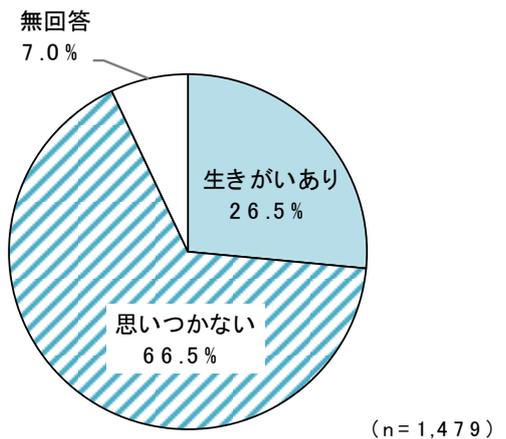
問 4-18 (高齢者)  
問 4-18 (要介護認定者)

生きがいはありますか。

高齢者 (65歳以上)



要介護認定者 (65歳以上)

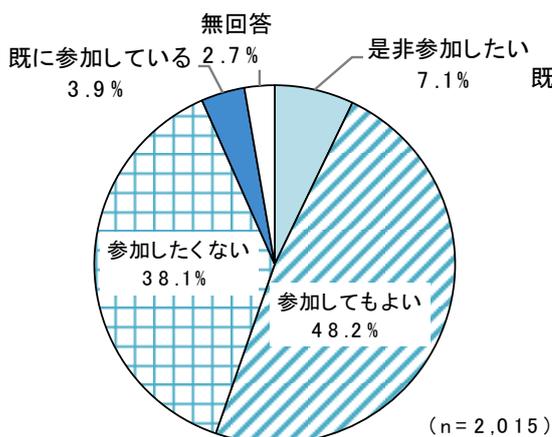


「生きがいあり」の割合は、高齢者で61.0%、要介護認定者で26.5%となっている。

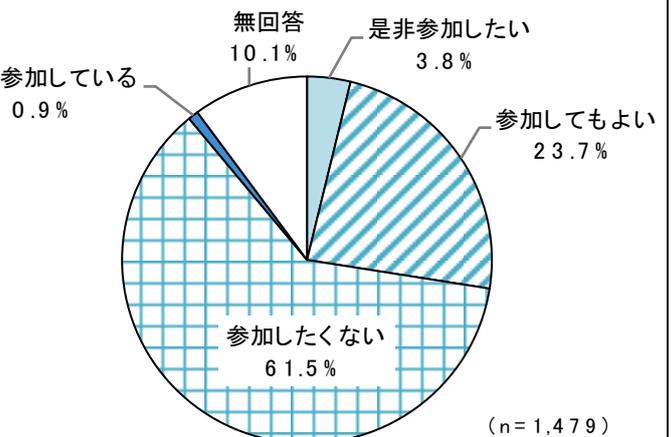
問 5-2 (高齢者)  
問 5-2 (要介護認定者)

地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

高齢者 (65歳以上)



要介護認定者 (65歳以上)



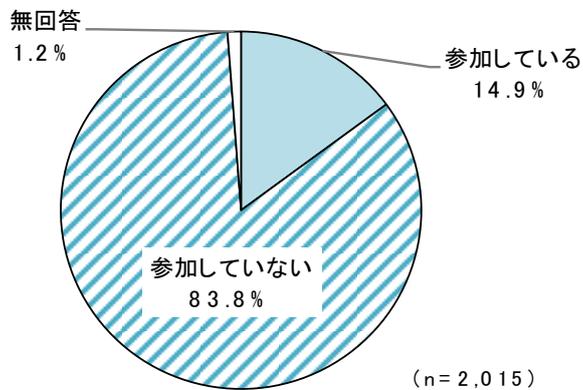
健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加者として「参加してもよい」人の割合は、高齢者で48.2%、要介護認定者で23.7%となっている。

問 10-2 (高齢者)

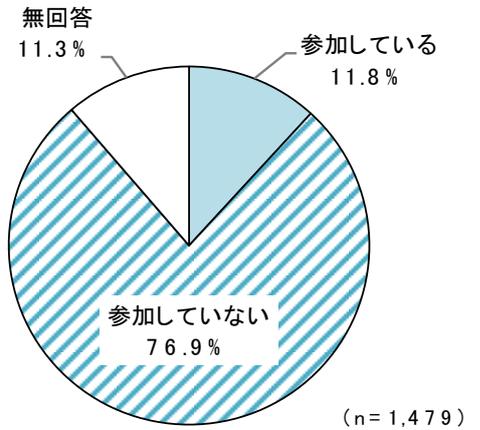
問 10-2 (要介護認定者)

高齢者が気軽に集える場所に参加していますか。

高齢者 (65歳以上)



要介護認定者 (65歳以上)



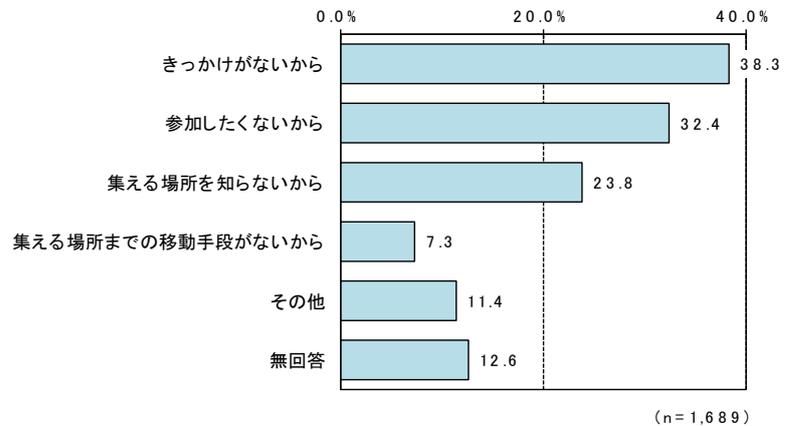
高齢者が気軽に集える場所に「参加している」人の割合は、高齢者で 14.9%、要介護認定者で 11.8%となっている。

問 10-2-3 (高齢者)

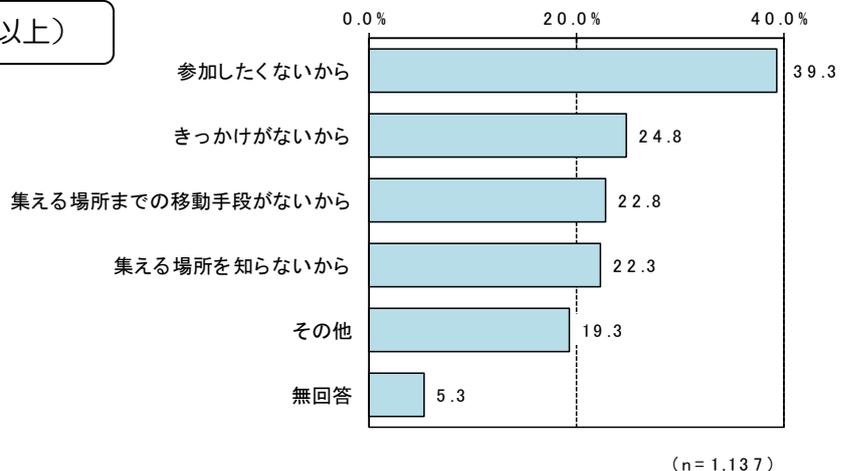
問 10-2-3 (要介護認定者)

高齢者が気軽に集える場所に「参加していない」と回答した方  
参加しない理由は何ですか。

高齢者 (65歳以上)



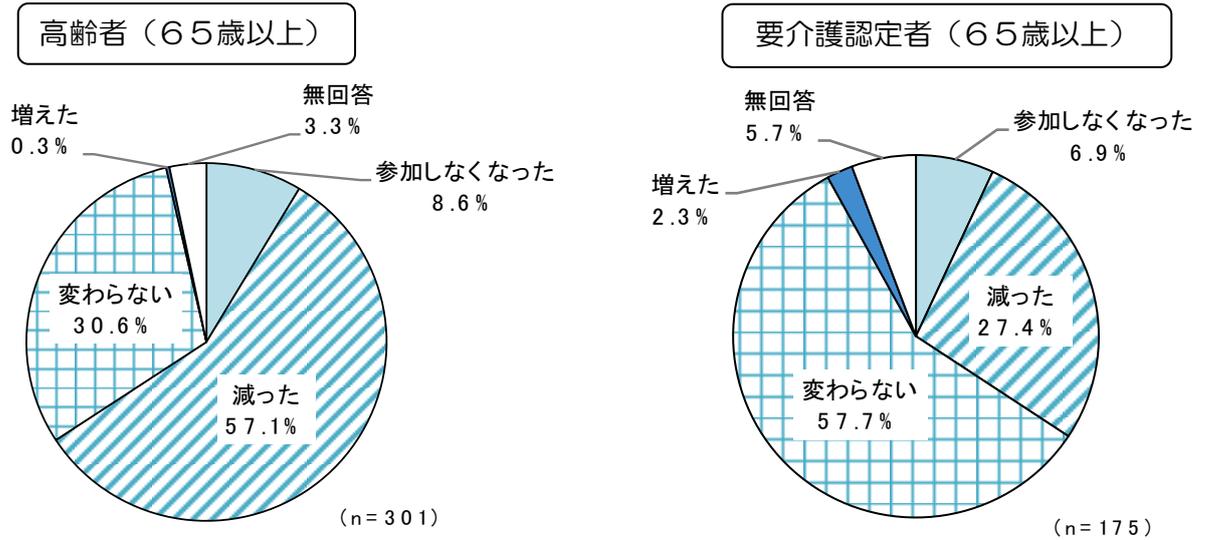
要介護認定者 (65歳以上)



集える場所に参加しない理由として、「きっかけがないから」、「参加したくないから」の意見が多くなっている。

問 10-2-2 (高齢者)  
問 10-2-2 (要介護認定者)

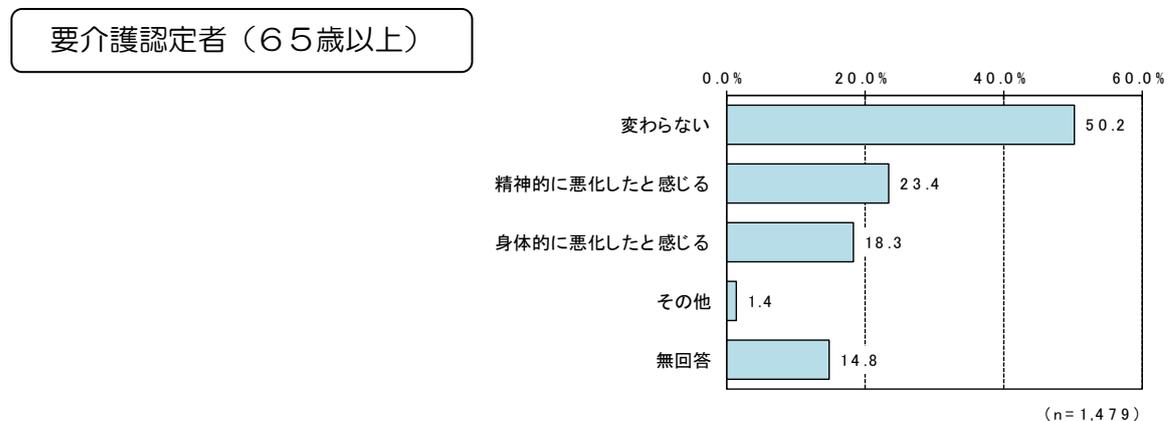
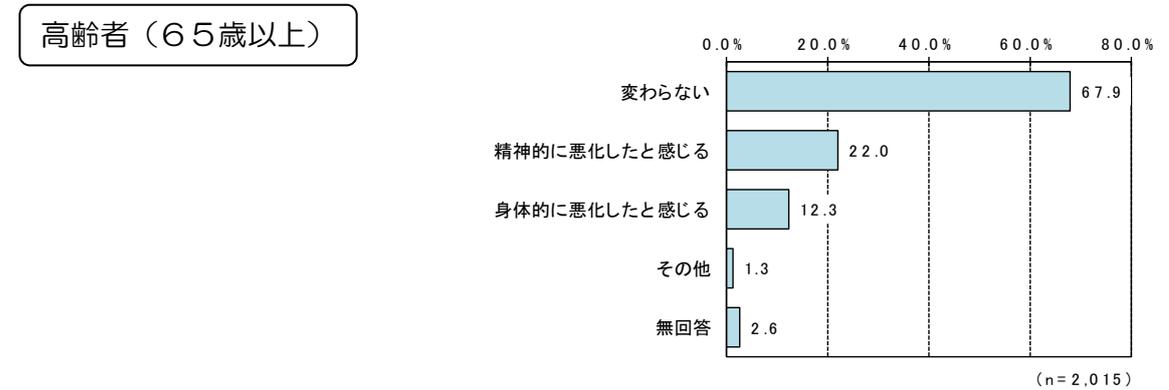
新型コロナウイルス感染症流行前と比べ、参加頻度は変化しましたか。



新型コロナウイルス流行前と比べた集いの場への参加頻度について、高齢者では「減った」が最も高く57.1%、要介護認定者では「変わらない」が最も高く57.7%となっている。

問 11-1 (高齢者)  
問 11-1 (要介護認定者)

新型コロナウイルス感染症流行前と比べ、健康状態に変化があったと感じますか。

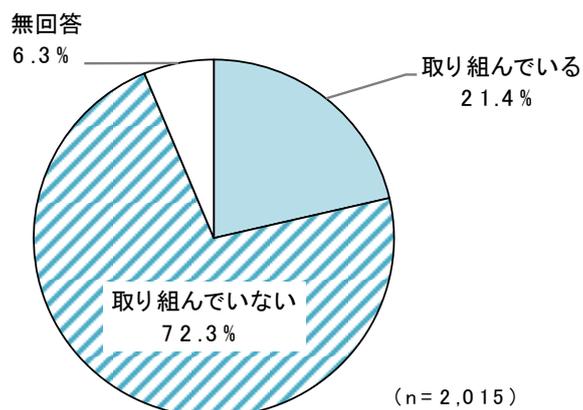


新型コロナウイルス流行前と比べた健康状態に変化について、「精神的に悪化したと感じる」割合は高齢者・要介護認定者ともに2割以上となっており、「身体的に悪化したと感じる」割合は高齢者で12.3%、要介護認定者で18.3%となっている。

問 12-1 (高齢者)

フレイル対策が重視されている中、現在あなたは介護予防に取り組んでいますか。

高齢者 (65歳以上)

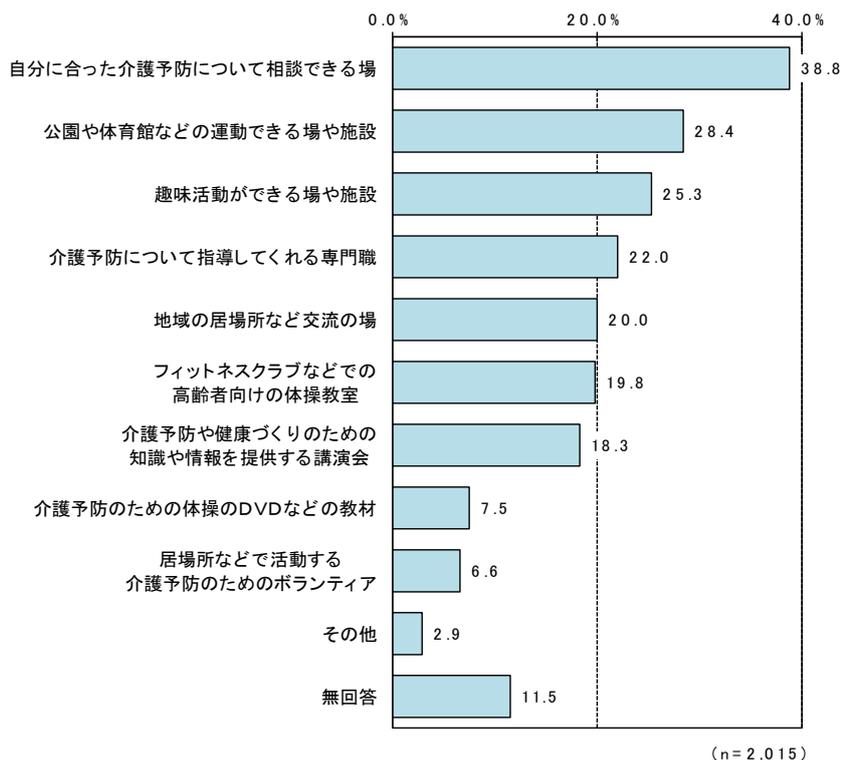


介護予防の取組状況について、「取り組んでいる」が21.4%、「取り組んでいない」が72.3%となっている。

問 12-3 (高齢者)

自分で介護予防に取り組むためにどのようなものがあればよいと思いますか。

高齢者 (65歳以上)



自分で介護予防に取り組むために必要なものについて、「自分に合った介護予防について相談できる場」が38.8%で最も高くなっている。

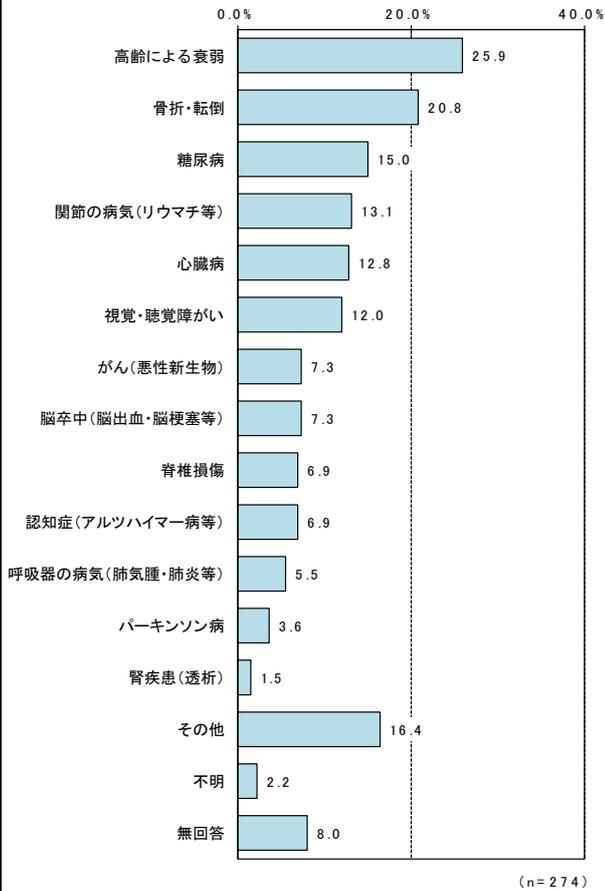
問 2-1 (高齢者)

介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。

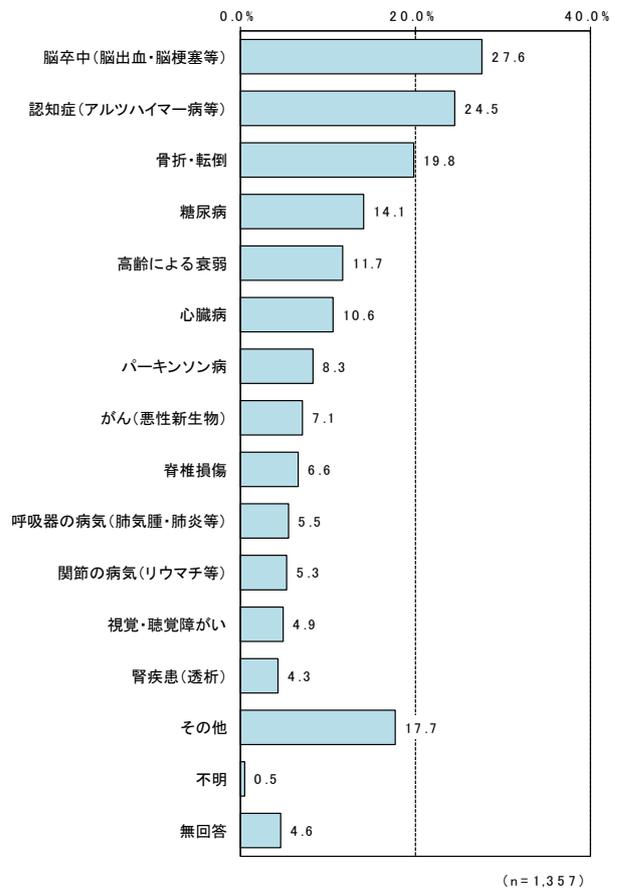
問 2-1 (要介護認定者)

(高齢者は何らかの介護が必要だが、認定を受けていない人)

高齢者 (65歳以上)



要介護認定者 (65歳以上)



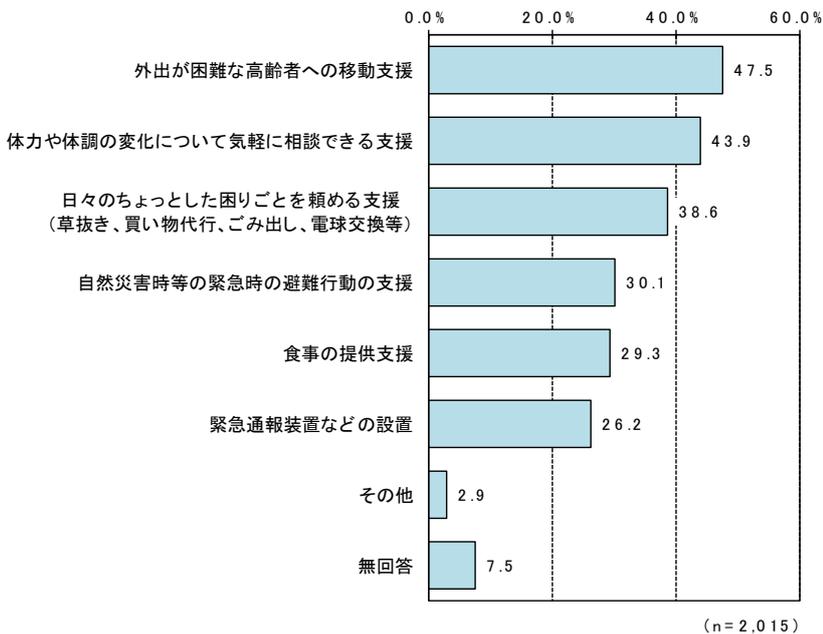
介護・介助が必要になった主な原因は、高齢者では「高齢による衰弱」と回答した人の割合が最も高く、25.9%。次いで、「骨折・転倒」(20.8%)、「糖尿病」(15.0%)。

要介護認定者では「脳卒中」と回答した人の割合が最も高く、27.6%。次いで「認知症」(24.5%)、「骨折・転倒」(19.8%)。

○基本目標「共に支え合い、つながる地域づくり」、重点課題②「包括的な支援体制の構築」についてのアンケート結果

問 9-2 (高齢者) どのような生活支援があればいいと思いますか。

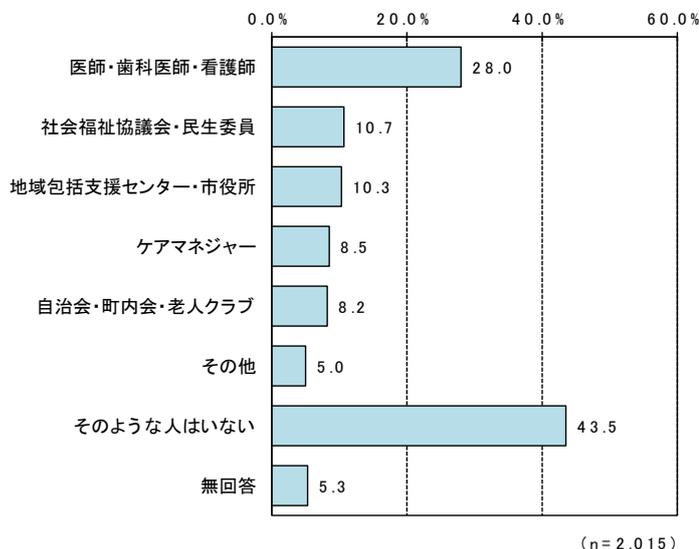
高齢者 (65歳以上)



必要な生活支援として、「外出が困難な高齢者への移動支援」や「体力や体調の変化について気軽に相談できる支援」の割合が高くなっている。

問 6-1- (5) (高齢者) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。

高齢者 (65歳以上)

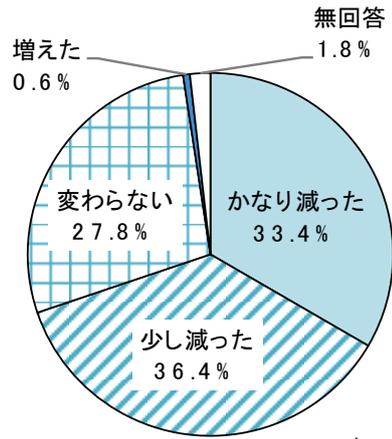


家族や友人・知人以外の相談先として、最も多いのは「医師・歯科医師・看護師」の28.0%、次いで「社会福祉協議会・民生委員」の10.3%、「地域包括支援センター・市役所」の10.3%と続いており、公的機関等の割合が低い傾向にある。

問 10-1 (高齢者)

家族や友人等身近な人と過ごす時間は、新型コロナウイルス感染症流行前と比べて変化しましたか。

高齢者 (65歳以上)



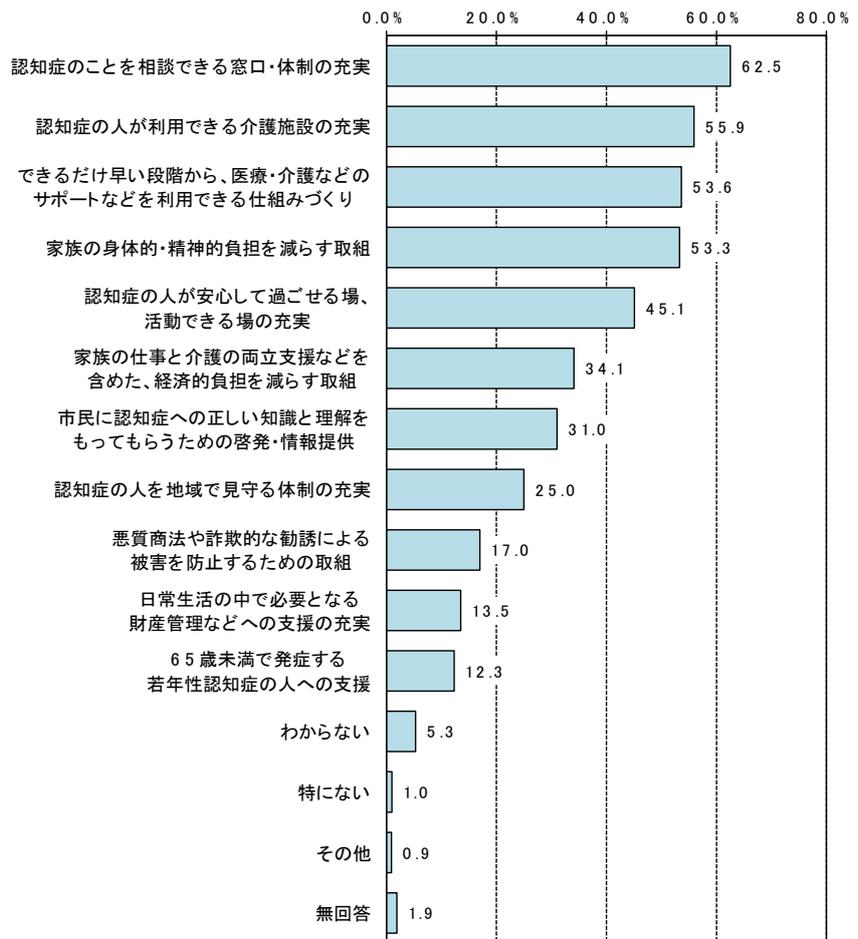
(n=2,015)

新型コロナウイルス流行前と比べた家族や友人等の身近な人と過ごす時間が「減った」人の割合は約7割となっている。

問 8-6 (高齢者)

認知症になっても、地域で安心して暮らすことができるためには、どのようなことに重点を置くべきだと思いますか。

高齢者 (65歳以上)



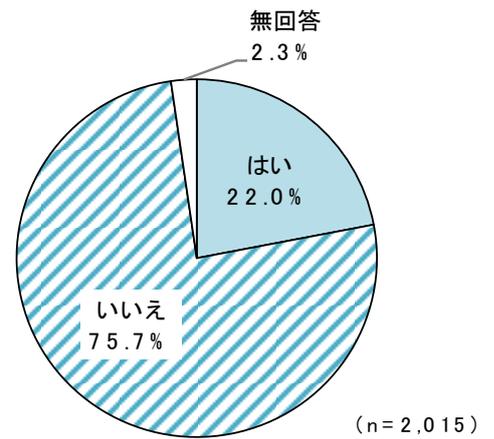
(n=2,015)

認知症になっても安心して暮らせるために重点を置くべきことは、多い順に「認知症のことを相談できる窓口・体制の充実」の62.5%、次いで「認知症の人が利用できる介護施設の充実」の55.9%、「できるだけ早い段階から、医療・介護などのサポートを利用できる仕組みづくり」の53.6%となっている。

問 8-2 (高齢者)

認知症に関する相談窓口を知っていますか。

高齢者 (65歳以上)

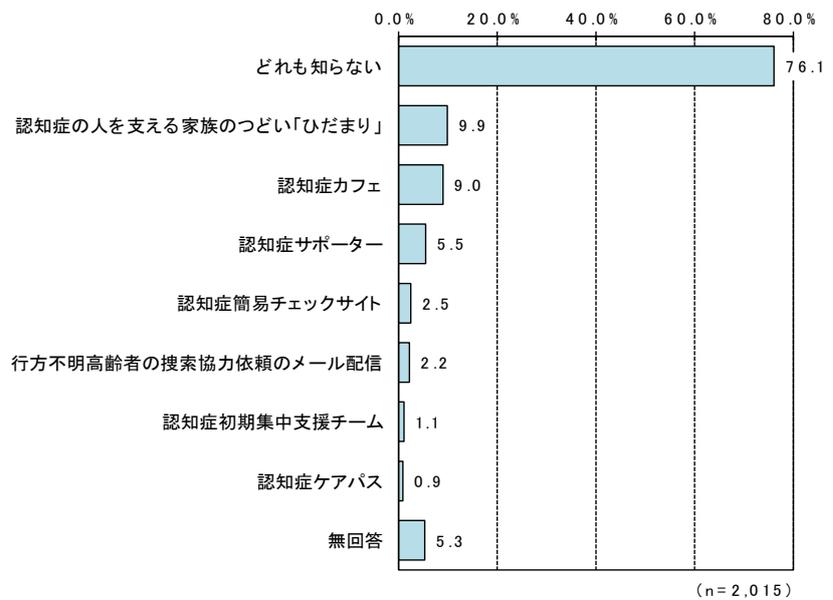


「認知症に関する相談窓口」の認知度は 22.0%と低い状況である。

問 8-7 (高齢者)

高松市の認知症に関する取組について、知っていることはありますか。

高齢者 (65歳以上)



高松市の認知症に関する取り組みの認知度は、いずれも 1 割未満と低くなっている。

○基本目標「安心して暮らし続けられる環境づくり」、重点課題③「生活環境の充実」についてのアンケート結果

問 13-4 (高齢者) 自分の最期をどこで迎えたいと思いますか。

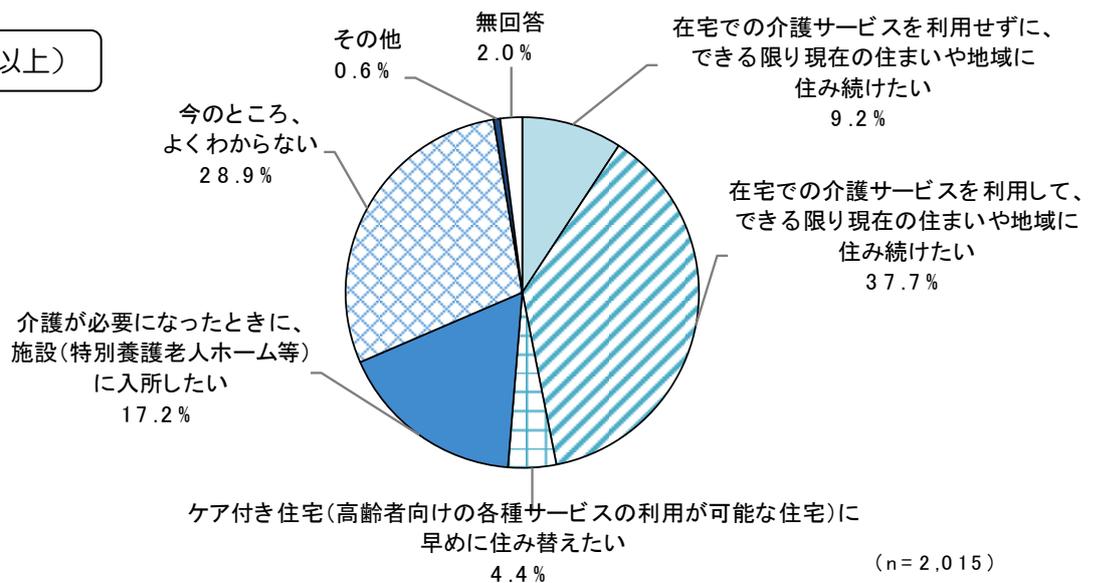
	1位	2位	3位
高齢者 n=2,015	自宅 (61.0%)	緩和ケア施設のある 医療機関 (13.5%)	今まで通ったことのある医療機関 (12.3%)
要介護認定者 n=1,479	自宅 (51.0%)	介護保険施設 (特養など) (13.7%)	今まで通ったことのある医療機関 (9.5%)

最期を迎えたい場所について、高齢者では、「自宅」が61.0%と最も多く、次いで「緩和ケア施設のある医療機関」が13.5%となっている。

要介護認定者では、高齢者と同じく「自宅」が51.0%と最も多くなっているが、次いで「介護保険施設(特養など)」が13.7%となっている。

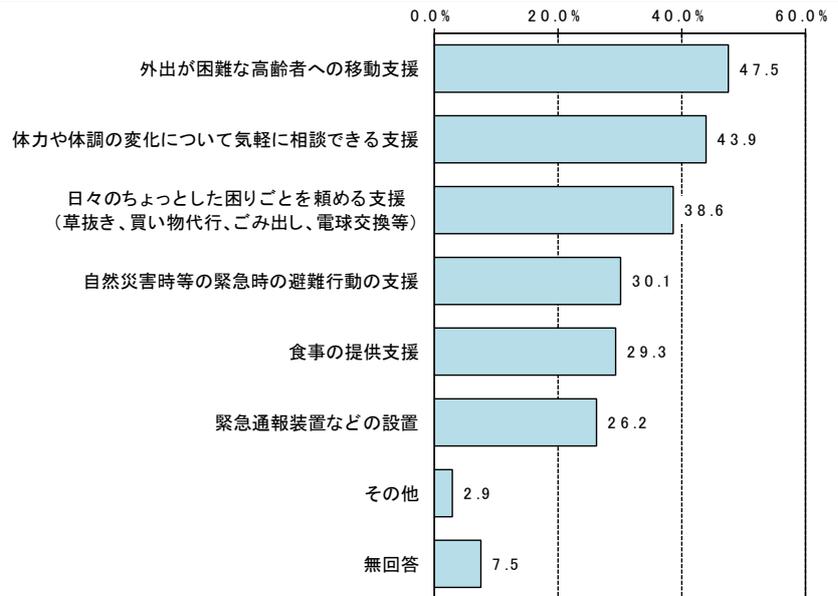
問 13-6 (高齢者) あなたに介護が必要になった場合、将来の住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。

高齢者(65歳以上)



今後、介護が必要になった場合の住まいと介護サービスの利用希望について、「在宅での介護サービスを利用して、できる限り現在の住まいや地域に住み続けたい」と回答した人の割合が最も高く、37.7%となっている。

高齢者(65歳以上)



(n=2,015)

必要な生活支援として、「外出が困難な高齢者への移動支援」や「体力や体調の変化について気軽に相談できる支援」の割合が高くなっている。